

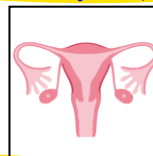
第232号

まちのくすりやさん

今回のおはなし



「女性の貧血 陰に重大疾患」



女性の貧血 陰に重大疾患

女性は月経や妊娠、出産で、男性より貧血になりやすく、貧血は女性の身近な症状といえますが、血液検査で指摘されても自覚症状が乏しく、受診を後回しにする人も少なくありません。貧血に重大な疾患が隠れていることもあります。専門家は、「貧血と分かったら、自己判断は厳禁です。早めに受診して下さい。」と呼びかけています。

血液検査の血色素量 (Hb, ヘモグロビン) が男性は 13 g/dℓ、女性は 12 g/dℓ を下回るのが貧血の基準とされています。厚生労働省の国民健康・栄養調査 (2022 年) では、20~40 代で貧血の人の割合は男性で 0.5% だった一方、女性は 18.6% と、男女で大きく差が開きました。

貧血がゆっくりと進行した場合は、症状を感じづらい人もいます。気づいたら重症の貧血だったということも少なくありません。一般的な症状は、動悸、息切れ、倦怠感 (けんたいかん)、顔面蒼白、活動量の低下などです。「1 日に 3 か所行っていた買い物が 1 か所しか行けなくなった」という変化にも注意が必要です。そのほか、集中力の低下、気分が落ち込む抑うつ症状が現れることもあります。

貧血は栄養不足や、個人の体質により鉄分を吸収しにくいこともあるとしつつ、急に症状が出てきた場合や、血液検査結果が突然悪化した場合などは他の疾患が隠れている可能性が高いとして、貧血を放置するのは危険です。病院を受診し、原因を究明するようにして下さい。

気をつけたい貧血の原因 (一部)

女性に特有な疾患	過多月経、子宮筋腫、子宮がん
女性は特に注意	甲状腺機能低下症
男女問わず注意	鉄欠乏性貧血、消化器疾患、腎不全、白血病

受診については、まずは原因が見つかる頻度の高い婦人科の受診を促します。月経時の経血量が多い「過多月経」と診断された場合は、低用量ピルの内服などの血量で改善が見込まれます。特に、月経が始まって間もない 10 代と閉経間近の 50 代で過多月経が起こりやすいです。また、子宮筋腫や子宮腺筋症で出血量が増えている場合や子宮がんの可能性もあり、早期の発見と治療が欠かせません。合わせて、内科の受診も必要です。胃潰瘍やポリープ、潰瘍性大腸炎、胃がん、大腸がんなどの可能性があります。便の中に血が混じっていないかを調べる便ヘモグロビン検査のほか、胃カメラや大腸カメラを行い診断します。血液中の甲状腺ホルモンが不足する甲状腺機能低下症でも貧血になることがあります。疲労感、足のむくみなどで、貧血自体の症状と似ているため注意が必要です。また、慢性腎不全やリウマチなど、慢性的な炎症でも、血液が作られにくくなり、貧血になることがあります。そのほか、白血病などの骨髄性疾患や自分の赤血球を自ら壊してしまう自己免疫性の疾患の可能性もあります。

子宮頸がん予防 (HPV ワクチン)

今年度 **16歳**（高校1年生相当）で、公費（原則自己負担なし）で接種を希望する方は、**11月中に初回接種**できるよう、医師にご相談下さい。

2026年度の公費助成（原則自己負担なし）対象者は、今年度12歳から16歳になる方です。

※標準的な摂取時期は中学校1年生です。

※2026年度に高校1年生相当の女子は、HPV ワクチン定期接種の最終年度です。遅くとも11月までに1回目のワクチンを接種する必要があります。

1回目：11月までに1回目接種（少なくとも1か月以上）

2回目：12月までに2回目接種（少なくとも3か月以上）

3回目：翌年3月末までに3回目接種

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>